令和元年度　鹿児島県看護協会　新人助産師合同研修会

日時：令和元年 12 月 7 日、12 月 8 日、令和 2 年 1 月 18 日、1 月 19 日、2 月 15 日
場所：鹿児島県看護協会　看護研修会館　２階視聴覚室
目的：県内に就労した助産師の卒後教育を統一して実施することで、臨床助産実践能力を高め、助産師の人材育成の基礎となることを目的とする。
対象：鹿児島県内の医療機関に就労する 3 年目未満の助産師・研修 5 日間の日程を通して受講できる者
参加者：２１名

【講義内容】

第 1 回

・開講の挨拶　田畑看護協会長
・オリエンテーション　新人助産師合同研修の目的　助産師職能委員長　園田良子
・助産師のクリニカルラダー　愛育病院　看護部長　片平久美子
・交流会 Part 1　自己紹介、意見交換　助産師職能委員
・母体　胎児の健康診査　鹿児島大学医学部保健学科　助教　若松美貴代
・施設と地域の連携　地域の保健師活動について　鹿児島県くらし保健福祉部子ども家庭課技術補佐　宮園君子

第 2 回

・助産記録　済生会川内病院　看護師長　山下由紀子
・妊産婦の助産診断技術　内診/外診から得られる情報と方法、実技　鹿屋医療センター　副看護師長柏木幸子
・正常分娩時の助産診断／技術　産婦の産む力を高める経腟分娩の介助　愛育病院　助産師長
骨盤出口部拡大体位、分娩進行に伴う異常発生予想と予防的行動　茶圓寛美

第 3 回

・新生児のフィジカルアセスメント　鹿児島市立病院　新生児集中ケア認定看護師　大脇吉子、佐々木理恵
・交流会 Part 2　先輩助産師から「助産師のキャリアパス・ポートフォリオを語る」　３名の先輩助産師

第 4 回

・CTG による胎児心拍モニタリングの判読　(CTG 判読スペシャリスト)鹿児島大学病院助産師　東かずみ
・陣痛促進剤の使用方法　輸液ポンプの使用方法　国立病院機構指宿医療センター副看護師長　的場美香

第 5 回

・母乳栄養の理論／母乳育児支援のためのアセスメントとケア技術　神村学園高等部助産学専攻科開設準備室室長　原田美由紀
・助産理論　鹿児島大学医学部保健学科　講師　井上尚美
・交流会 Part 3　「助産師としての今後の目標」　助産師職能委員
・閉校式　助産師職能委員

《受講者の声》

・新生児の循環は苦手だった。講義を受けて、わかりやすく良い復習になった。
・助産記録は、妊産褥婦に対する助産師の責任を明らかにするもので、その過程を正確に客観的に記載する必要があると分かった。意識して助産記録を記載したいと思います。
・普段の外診や内診技術では、自分が意識していなかったことで、必要な情報を得ることができないということがあるので、目的意識を持ってケアしていきたい。
・助産師のクリニカルラダーでは、自分自身がどうなりたいのか可視化することで、個人の目標を達成するだけでなく、組織の発展にもつながるのだと学ぶことができた。
・助産業務のガイドラインの内容を知り、ガイドラインに基づき母体、胎児をケアしていこうと思いました。
・地域連携では、地域での支援内容や流れについて具体的に学ぶことができた。鹿児島県の母子に関わる一人の助産師として、何ができるのかを考えながら業務にあたっていきたい。
・CTG の判読は基本を学びなおすことができた。グループワークを通じて、普段から CTG 判読について複数の人と話し合っていきたいと思いました。
・母子の安全を守るために、輸液ポンプの正しい操作方法を身に付ける必要があると思った。
・先輩や受講生も悩みながら働いていることがわかった。今回の研修で出会えた人との関りを大切にしたい。